

議案

広島市地域公共交通利便増進実施計画の一部変更について

■ 変更内容

地域公共交通利便増進実施計画に、新たに「バス停等の整備や都心部におけるバス停の再整備方針の検討」を加える。

（背景及び変更理由）

本市では、広域経済圏のヒト・モノの「循環」と地域住民の活動による「循環」を直接支えている「移動」を容易にするため、事業者間の「競争」を原則としてきた公共交通を、道路と同様に「社会インフラ」と捉えた上で、「協調」して運用するものへと舵を切り、国の支援も引き出しながら、利用者の利便性を重視した「広島型公共交通システム」を構築することとしている。

そのモデルケースとなるべく、まずは極めて厳しい状況にあるバス事業について、本市やバス事業者が連携しながら、(一社)バス協調・共創プラットフォームひろしま（以下、プラットフォームという。）を中心に、利用者目線で質の高いバスサービスの提供とバス事業者の経営安定化を図るための仕組みの構築に取り組んでおり、これまでの常識や壁を乗り越えた民と民、官と民の共創によるバス事業の再構築を推進している。

プラットフォームにおいては、令和7年11月に、将来ビジョンやその実現に向けた6つの戦略などを取りまとめた経営計画を策定し、その重点取組のひとつとして、利用者がわかりやすく使いやすい環境を整備していくため、同一名称のバス停が複数存在する都心部において、バス停の集約化等を進めることとしている。

こうした取組との連携を図るため、本市においては、都心部におけるバス停の集約化等に向け、荷捌きスペースや他分野との連携を踏まえた道路空間の再整備計画を策定することとしている。

再整備計画の策定に当たっては、国庫補助金（社会資本整備総合交付金）を活用する予定であり、そのためには、地域公共交通利便増進実施計画への位置付けが必要とされていることから、この度、同計画の一部変更を行うものである。

戦略1 利用者目線での徹底した利便性向上

バス停の乗継環境・待合空間の改善 **重点取組**

行先や運行ルート、運行時刻などのバス情報をわかりやすく提供するとともに、都心部において乱立する同一名称のバス停の集約に取り組みます。また、安心してバスを利用でき、待ち時間を快適に過ごせるよう、バス停の空間整備などに取り組みます。

■ **主な取組内容**
相生通りや鯉城通りを軸とする都心部において、ウォークアブルなまちづくりとも連携しながら、バス停の集約とストレート化のほか、上屋・ベンチ、バスロケーションシステム等の設置による空間整備及び統一したわかりやすいデザインの時刻表・路線図の掲示や案内サインの見直し等による情報発信機能の充実を一体的に進めます。
また、都心部以外でも、利用者の多いバス停や主要な乗継地点・病院等の必要性が高いバス停において、空間整備と情報発信機能の充実を進めます。



立町（あおぞら銀行前）バス停

① 都心における路線の効率化

■バス路線の過密解消

都心における重複路線を解消するため、既存路線の便数適正化を図るとともに、平成 30 年 5 月から都心を循環する「エキまちループ」を運行しています。今後、この循環線への利用者の定着状況を踏まえながら、広島駅・紙屋町間のバス路線のさらなる過密解消を図ります。

こうした取組により、運行経費の削減を図るとともに、重複の解消により生じる車両や運転手などの余裕を、他の路線の運行へ活用することが可能となります。

また、相生通りでは、同一名称のバス停が複数街区に分散し、分かりにくくなっていることから、過密の解消に併せ、バス停の集約に取り組みます。集約に当たっては、利用者が乗降しやすくなることや運行の安全性が向上するといった観点から、歩道部分の切り込みが無いストレート型バス停への転換についても検討します。

計画期間内の取組

広島駅・紙屋町間のバス路線の過密解消を図ります。

また、過密の解消に併せ、分散して分かりにくいバス停の集約に取り組みます。



図-46 バス停の集約イメージ

② 郊外部における路線の効率化

■広島市北部医療センター安佐市民病院へのバス路線の新設

広島市北部医療センター安佐市民病院（令和 4 年 5 月開院予定）への市北部の各地区（白木、高陽、可部、安佐）及び近隣市町からのアクセスや、可部地区の各種施設の利用が便利になるよう、各地区から新病院へ直通するバス路線を新設します。

また、CO₂ 削減効果が高く、災害時の電力供給源として活用可能な電動バスの導入を検討します。

計画期間内の取組

広島市北部医療センター安佐市民病院の開設に併せ、バス路線を新設するとともに、電動バスの導入を検討します。